研究センター・試験地紹介 #23

九州研究センター

公益財団法人日本植物調節剤研究協会
九州研究センター　所長
西田　勉

はじめに

九州研究センターが所在する福岡県久留米市三潴町（みづままち）は福岡県の南部，筑後平野に位置しており（図 -1），西へ 5km ほど進むと佐賀県との県境を筑後川が流れる。三潴町は平成 17 年（2005 年）に久留米市と合併したが，それまでは三潴郡に属していた。

久留米市はブリヂストンの創業地でもあり，ゴム産業や久留米絣に代表される伝統工芸など「ものづくりのまち」として発展してきた。また，とんこつラーメン発祥の地であることは有名であるが，人口当たりの焼き鳥店数が日本一でもある。

九州一の大河筑後川と緑豊かな耳納連山に育まれた筑後平野の肥沃な大地のもと，米麦大豆，野菜，果樹，種苗苗木類，花き，酪農，畜産など多種多様な品目が生産され，全国でも有数，かつ県内最大の農業産出額を誇る農業都市である。

図 -1　九州研究センターの位置

沿革

九州研究センター（2024 年～）の前身である福岡第一試験地は 1987 年に開設され，1996 年に福岡第二試験地が閉鎖されたことにより 1998 年に福岡試験地へと名称変更された。2001 年には久留米市太郎原町から当時の三潴郡三潴町へ移転し，2010 年には新事務所を建設，2017 年に福岡研究センター，2024 年に九州研究センターへと名称変更され現在に至る。

図 -2　試験圃場の全景

水稲試験

九州研究センター周辺は水田地帯のため（図 -2），水稲作を中心とした試験研究を実施している（図 -3）。毎年固定して使用する試験水田は約 1.9ha であり 5 ブロックに分けられている。新規薬剤の除草効果と水稲への影響の基本的な特性を明らかにする第一次適用性試験のほか，薬剤の実用性を判定する第二次適用性試験，植調協会の研究事業である重点研究課題や基盤研究課題の他に，農薬メーカー依頼の非公開試験なども実施している。調査対象雑草は一般的にはノビエ，カヤツリグサ，コナギ，帰化ヒメミソハギ，アゼナ，ミゾハコベ，ホタルイ，ミズガヤツリ，ウリカワ，ヒルムシロ，セ

図 -3　試験区設置の様子と圃場の全景

図 -4　畑作試験

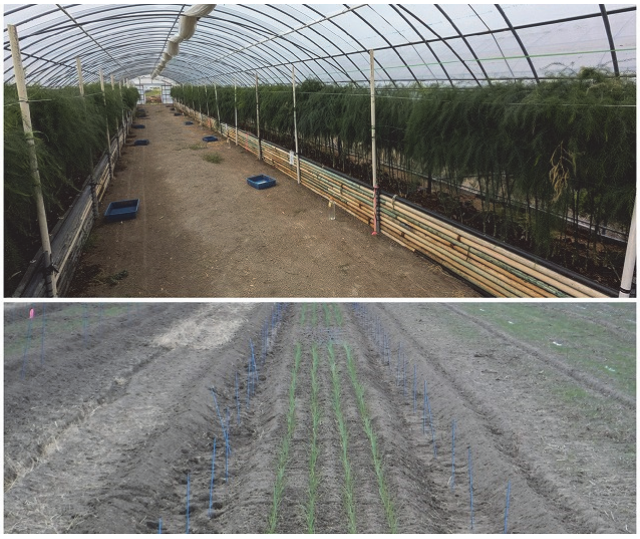

図 -5　野菜試験

図 -6　作物残留試験

リ等であり，特殊雑草試験としてオモダカ，クログワイ，ヒレタゴボウの他，九州で問題となっている草種については現地にて試験を実施することがある。

畑作試験

畑作，露地野菜試験用の畑圃場（図 -4）はセンター事務所より車で 10 分ほどの場所に借りており，約 53a の面積で 4 ブロックに分けられている。毎年の試験作物の種類，試験数が変動するためきれいな輪作体系を組みにくいが，連作とならないように作付けしている。畑圃場での作目は主にかんしょ，ばれいしょ，とうもろこしであり，大豆や大麦，小麦の試験は水田の裏作もしくは輪作で実施している。

野菜試験

春夏作野菜の試験（図 -5）は 2024 年から実施し，これまでにダイコン，ニンジン，ブロッコリー，ネギを作付け，アスパラガスは近隣農家の施設にて試験を行っているが，近年の猛暑により栽培管理に苦労している。秋冬作ではタマネギを水田裏作にて作付けしている。

残留試験

水田約 60a，畑約 12a の圃場を用い作物残留試験（図 -6），土壌残留試験を実施している。毎年の試験作物の種類は様々であるが，水稲，大豆，麦を中心に畑作物や露地野菜，施設野菜についても試験を実施している。また，当研究セン

図 -7　研修会の様子

図 -8　周辺の見どころ

ターでは栽培が困難であるミカンやブドウ，カキ等については県の農業試験場の圃場を借りて作物残留試験を実施することもある。

九州地域での役割

当研究センターでは九州地域における除草剤試験のリーダー的役割を担うことにも努めている。九州各県の除草剤試験担当者を対象とした除草剤試験の研修会を毎年行い（図 -7），試験設計や成績書のチェックについても協力している。その他希望があれば普及センターやＪＡ，農薬メーカーを対象とした雑草防除に関する研修会も行っている。

周辺の見どころ（図 -8）

久留米市内には 15 もの酒蔵が点在しており毎年２月には蔵開きイベントが行われ，シャトルバスで各酒造を巡り飲みくらべができる。

田主丸地域は巨峰開植の地で，耳納連山の麓に約 60 件の観光ぶどう園がある。その他，柿やいちご，梨，ブルーベリー，いちじくなど，一年を通してフルーツ狩りが楽しめる。

毎年８月５日に開催される筑後川花火大会。370 年以上の歴史があり，西日本最大級の約 1 万 5000 発の花火が打ち上がる。

大善寺玉垂宮で毎年正月７日に行われる「鬼夜」。600 年余りの伝統を持つ神事。日本三大火祭りのひとつに数えられるとともに，国の重要無形民俗文化財にも指定されている。長さ 13 メートル，重さ 1.2 トンの燃え盛る大松明６本を，数百人が支えながら境内をまわる「大松明廻し」は圧巻。

おわりに

九州研究センターは九州地域のセンターとしての試験実施はもちろん，研究開発や普及啓発にも積極的に取り組んでいきたい。そのため九州支部をはじめ各県の農業関係者，現場の農家や委託メーカー等と連携を密にして，新たな技術開発や問題解決に貢献していきたい。

参考資料

・久留米市公式ホームページ：https://www.city.kurume.fukuoka.jp/
・久留米公式観光サイト　ほとめきの街：https://welcome-kurume.com/
・くるめのみりょく　久留米シティプロモーション：https://www.kurumepr.com/main/6.html